

Japanese Utility Model Application Laid-Open No. 180643/85

Laid-Open Date: November 30, 1985

Filing No.: 68548/84

Filing Date: May 12, 1984

Title of the Device: Needle Punched Carpet with Decorative Pattern

Applicants: Nissan Motor Co., Ltd.

Abstract

A needle punched carpet comprises two pile layers 7, 8 which have different colors from each other. Loop piles 9 of lower pile layer 7 are pulled out by being punched with needle 11 to form pile region 10 on an upper surface of upper pile layer 8. Pile region 10 has a color different from the upper surface of upper pile layer 8 so that a decorative pattern is formed on a surface of the needle punched carpet.

公開実用 昭和60— 180643

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60-180643

⑮ Int. Cl.⁴

B 60 N 3/04
A 47 G 27/02

識別記号

1 0 1

庁内整理番号

A-7332-3B
7613-3B

⑯ 公開 昭和60年(1985)11月30日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑰ 考案の名称 柄付ニードルパンチカーベット

⑱ 実 願 昭59-68548

⑲ 出 願 昭59(1984)5月12日

⑳ 考 案 者 山 内 茂 夫 厚木市岡津古久560-2 日産自動車株式会社テクニカル
センター内

㉑ 出 願 人 日産自動車株式会社 横浜市神奈川区宝町2番地

㉒ 代 理 人 弁理士 西 脇 民雄



明 細 書

1. 考案の名称

柄付ニードルパンチカーペット

2. 実用新案登録請求の範囲

色彩の異なるパイル層を少なくとも2つ、層状にし、且つ、前記一方のパイル層の一部をニードルで前記他方のパイル層側にパンチすることにより、前記一方のパイル層の一部を前記他方のパイル層から突出させて立毛部とすると共に、該立毛部を複数、模様を構成する様に設けたことを特徴とする柄付ニードルパンチカーペット。

3. 考案の詳細な説明

産業上の利用分野

この考案は、例えば自動車のフロア等に敷いて使用される柄付ニードルパンチカーペットに関するものである。

従来の技術

従来から第5図に示した様な自動車のフロア1には、通常、第6図に示した様なニードルパンチカーペット2(以下単にカーペット2と略称)が敷

かれているのが普通である。このカーペット2は基布にパイル(綿毛)をニードルでパンチする(突く)ことにより形成したものであるが、カーペット2の表面は平面的で触わった時のソフト感に乏しいため、感触が余り良くなかった。

この点を解決するものとしては、例えば実公昭54-21308号公報に開示された様なカーペット(床用敷物)があり、この公報には第7図、第8図に示した様なカーペット3が開示されている。このカーペット3もカーペット2と同様にして製造されたもので、その表面にはソフト感を出すための立毛層4が設けられている。この立毛層4はパイルをループ状に立毛させた立毛ループ群から構成されているため、カーペット3の感触は良いが、カーペット3の表面に単一色で単調な立毛層4を設けただけであるため、視覚的な面白さ、すなわち美観性が余りないものであった。

この美観性を少しでも良くするため、第9図に示した様に、カーペット5の表面に同一形状の立毛部6を等ピッチで設けることにより、カーペッ



ト5の表面に柄を付けるようにしたものが考えられている。

発明が解決しようとする問題点

しかしながら、カーペット5の表面に設けた立毛部5とこれらの間の部分とは同一色であったため、立毛部5によって構成される柄は単調となり、美観性に乏しく、商品性も不充分であった。

発明の目的

そこで、この発明は、美観性が良く、商品性の高い柄付ニードルパンチカーペットを提供することを目的とするものである。

問題点を解決するための手段

この目的を達成するため、この考案は、色彩の異なるパイル層を少なくとも2つ、層状にし、且つ、前記一方のパイル層の一部をニードルで前記他方のパイル層側にパンチすることにより、前記一方のパイル層の一部を他方のパイル層から突出させて立毛部とすると共に、この立毛部を複数、模様を構成する様に設けた柄付ニードルパンチカーペットとしたことを特徴とするものである。

作 用

この様な柄付ニードルパンチカーペットによれば、複数の立毛部とこれらの間の部分の色彩が異なるため、立毛部及びこれらの間の模様が明瞭になり、美感性が向上する。

実 施 例

以下、この考案の実施例を第1図～第4図に基づいて説明する。

第1図、第2図において、色彩の異なるパイル層7，8は層状に重ね合せられている。この上方（他方）のパイル層8の上面側には、複数のループ状パイル9からなる立毛部10が設けられている。この立毛部10を構成するループ状パイル9は、一方のパイル層7をニードル11で他方のパイル層8側にパンチする（突く）ことにより形成したもので、パイル層8を貫通して上方に突出している。従って、パイル層8の表面上には、これと色彩の異なる立毛部10が形成されることになる。しかも、この様な立毛部10は、複数条並設されていて、パイル層8の表面（上面）上にストライプ模様を形成し



ている。

次に、この様な構成の柄付ニードルパンチカーペットの作用を説明する。

この様な柄付ニードルパンチカーペットにおいて、例えばパイル層7を赤色、パイル層8を黄色等の異なる色彩にしておけば、パイル層8上には赤色の立毛部10が形成されることになるので、パイル層8上には黄色の色彩の中に赤色の模様を描出されることになる。この結果、立毛部10とこれらの間の模様が単一色に比べて明瞭になり、美感性が向上する。

しかも、立毛部10は複数のループ状パイル9から構成されているため、感触はソフトとなる。

以上説明した実施例では、ストレートに延びる立毛部10をパイル層8の表面上に複数条並設して、パイル層8上にストライプ模様を形成したが、必ずしもこの模様にのみ限定されるものではない。例えば、第3図に示した様に立毛部10を波形状に形成してもよいし、第4図に示した様に立毛部10とこれ以外の部分とを市松模様に配列しても良い。



これらの模様は一例を示したものであり、要はパイル層8と立毛部10とが異なる色彩で模様を構成していれば良い。

考案の効果

この考案は、以上説明した様に、色彩の異なるパイル層を少なくとも2つ、層状に重ね合せ、且つ、前記一方のパイル層の一部をニードルで前記他方のパイル層側にパンチすることにより、前記一方のパイル層の一部を他方のパイル層から突出させて立毛部とすると共に、この立毛部を複数、模様を構成する様に設けた柄付ニードルパンチカーペットとしたので、複数の立毛部とこれらの間の部分の色彩が異なることになり、立毛部及びこれらの間の模様が明瞭になり、美感性も向上する。しかも、立毛部が設けられているので、ソフトな感触が得られる。尚、この様な柄付ニードルパンチカーペットを自動車に用いれば、色や柄をシートクロスの色柄とコーディネートすることができると共に、一体感のあるインテリアデザインとすることができる。また、この考案に係る柄付ニ

ードルパンチカーペットを自動車以外に使用しても同様な効果が期待できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案の一実施例を示す柄付ニードルパンチカーペットの斜視図、第2図は第1図に示した柄付ニードルパンチカーペットの端面を概略的に示した説明図、第3図及び第4図はこの考案の他の実施例を示す柄付ニードルパンチカーペットの斜視図、第5図は従来のカーペットを備える自動車の概略説明図、第6図は第5図のVIにおける拡大図、第7図は従来のカーペットの他の例を示す斜視図、第8図は第7図のVII-VII線に沿う断面図、第9図は従来のカーペットの他の例を示す断面図である。

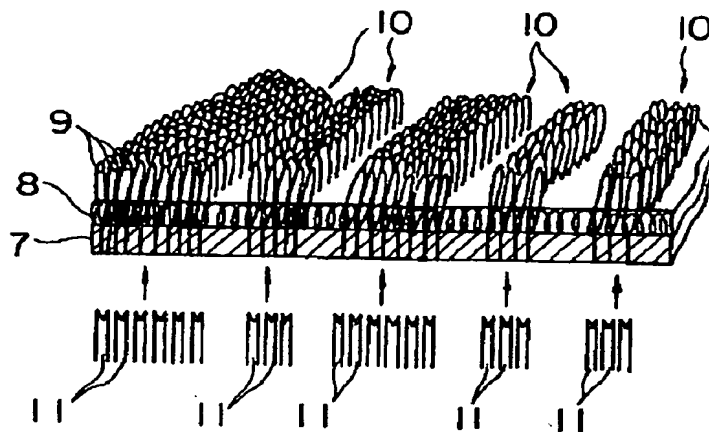
7, 8…パイル層、 9…ループ状パイル、

10…立毛部、 11…ニードル。

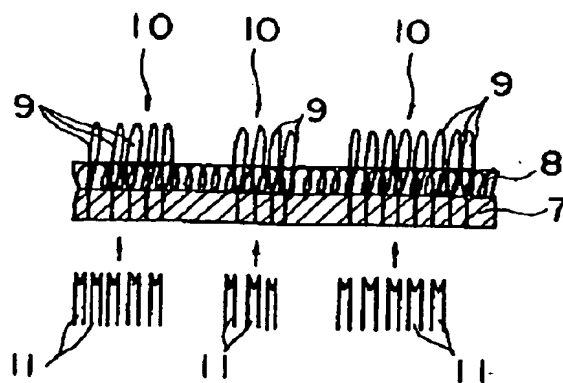
出願人 日産自動車株式会社
代理人 弁理士 西脇民雄



第 1 図



第 2 図

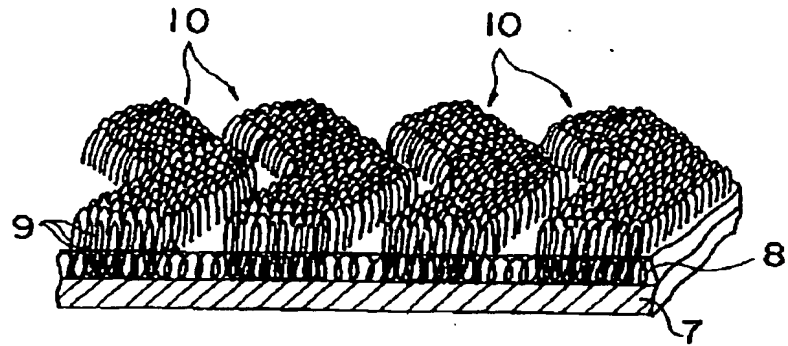


509.

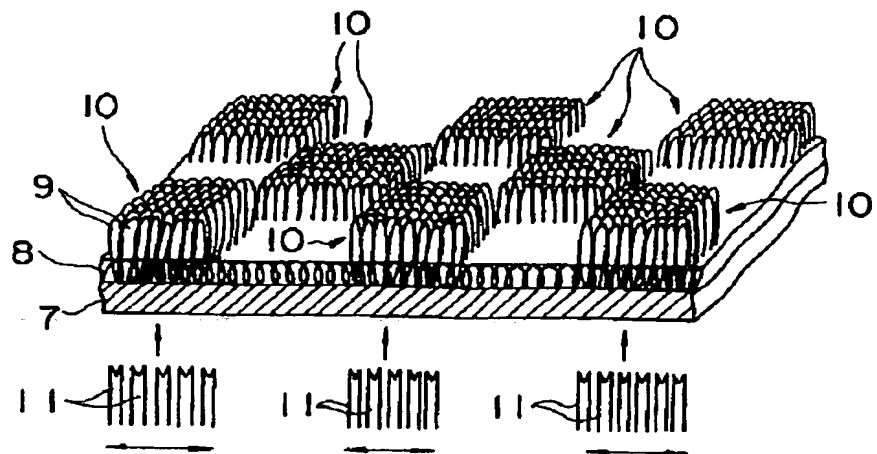
実用 60-180643

代理人 弁理士 西 脇 民 雄

第 3 图

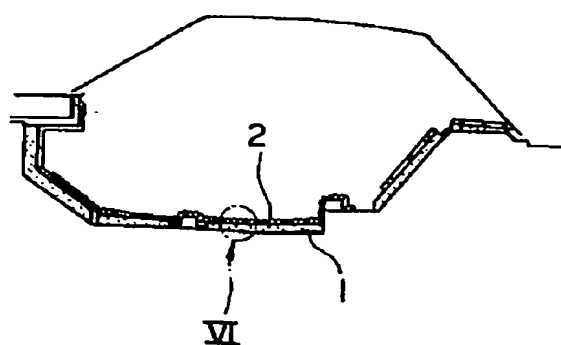


第 4 图

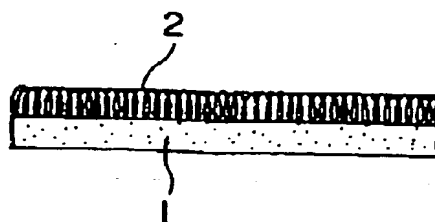


510

第 5 図

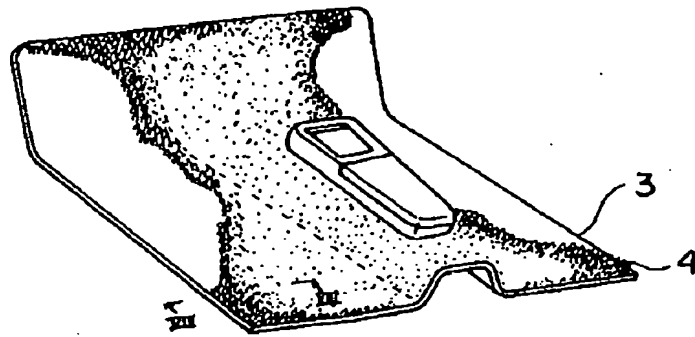


第 6 図

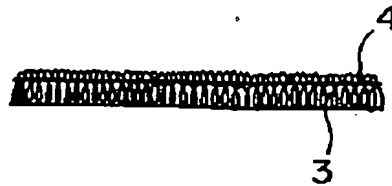


511

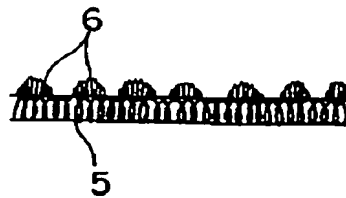
第 7 圖



第 8 圖



第 9 圖



512

美國 60-118061

代理人 弁理士 西 脇 民 雄